武蔵野美術大学 保護者向け情報誌

MUSABI *information*

Musashino Art University Information

February 2022

特集

ムサビのキャリア支援

4 学科紹介［視覚伝達デザイン学科］
6 授業紹介［造形総合科目・文化総合科目］
7 卒業生紹介
8 mauleaf
10 NEWS［インフォメーション・展覧会情報］
12 2022年度学事予定／お問い合わせ先

ポートフォリオ講座の様子（今年度はオンラインで実施）

特集

ムサビのキャリア支援

ムサビ生の多様な進路に合わせた支援活動を紹介します

コロナ禍における就職活動

2022年卒の学生に向けた企業の求人活動として、選考活動のオンライン化が大きなトレンドとなっています。新型コロナウイルス感染症流行以前の就職活動では、web面接など、オンライン選考を実施している企業は約1割程度でしたが、2020年春の緊急事態宣言発令後には約7割となり、現在では約9割の企業が実施しています。オンライン選考では、自己PRを動画で撮影して応募する、ポートフォリオ（作品集）をデータで提出する、面接や企業説明会にオンライン上で参加する、オンライン上でグループディスカッションを行う、などが実施されています。オンライン選考のメリットのひとつとしては、会社に出向く必要がないため、多くの企業説明会に参加する事が可能になる、という点がありますが、一方、デメリットとしては、対面ならではの情報収集が激減し、実際の働くイメージに結び付きにくいなど、内定辞退や入社意欲低下に繋がっている、という点があります。今後の就職活動については、引き続きオンラインでの採用選考がベースになると想定し、オンラインでのパフォーマンスを上げる準備が必要となります。また、近年、夏から冬にかけて行われるインターンシップ（学生が在学中に企業等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと）への参加がその後の就活にプラスとなり、また採用に直結する場合もあります。インターンシップでは、社内の雰囲気や業務内容、適性の有無などを確かめることもできるため、スキルアップや職場体験などを目的とした内容で、興味のある業界のインターンシップがあればオンライン開催でも、積極的に参加することを勧めています。

キャリアセンターでは、オンライン選考対策としてオンライン模擬面接やグループディスカッション対策講座などオンラインへ特化した各種就活イベントを実施しています。また、インターンシップガイダンスの実施や、授業の一環として行われるインターンシッププログラムの紹介を行っています。

ポートフォリオ展示会

職種別就職状況一覧

職種	割合
デザイナー等クリエイティブ職	63%
総合職・一般職・販売職	32%
教員・公務員・学芸員・講師	3%
その他	2%
	100%

2020年度卒業生のうち、就職者の内訳

就職した卒業生のうち、6割以上の学生がデザイナー等クリエイティブ系の職種に就いています。また、近年は授業内の講評等で培ったプレゼンテーション力や提案力をいかし、企画やプランナーなどの総合職として就職をする学生も増えています。職種によって採用選考の段階で求められる提出物・能力は大きく異なっており、特にデザイナー等クリエイティブ職を目指す場合は、志望する企業や業種に合わせたポートフォリオ（ファイル・パネル・冊子などの作品集で、自分の考え方、技術力、企画力などをアピールできるように組み立てるもの）が必要となります。キャリアセンターが実施するポートフォリオ作成支援プログラムでは、ポートフォリオの作り方やレイアウトなどをいつでもどこでも受講できるようオンデマンドで配信し、その他にも、業界の人事担当者や教員から直接指導を受けブラッシュアップを行うイベントも同時に開催しています。

キャリアセンターによるサポート

美術大学ならではの、多様な進路が考えられる本学では、1・2年次の早期から4年間を通じて卒業後の将来像がイメージできるよう、希望進路に応じた様々なキャリア支援プログラムを用意しています。コロナ禍においては、各種イベントのオンライン化、オンデマンド化を図り、学生のニーズにこたえています。

以下はプログラムの一例です。その他のプログラムについては以下webサイトよりご確認ください。

https://www.musabi.ac.jp/career/support/

「個別進路相談」（全学年）
業界に詳しい学科担当の職員やキャリアカウンセラーによる個別進路相談を年間約2500件実施し、それぞれの状況に応じたアドバイスや履歴書の添削、模擬面接などを行っています。

「内定者報告会」（全学年）
就職が決まった先輩による報告会を実施しています。

「作家・クリエイター支援プログラム」（全学年）
社会で活躍する卒業生によるトークイベントや、知的財産権、著作権、および税金に関する講座を中心に、企業就職以外の進路選択をバックアップしています。

授業「キャリア設計基礎」（1・2年次）
卒業後はどんな人生があるのか？ を考えるヒントとして、さまざまな職種の方や作家を講師に招き、今の立場に至った経緯や体験談を語ってもらいながら、各自がキャリアを思い描く授業です。早い段階から社会や仕事に対して具体的なイメージを持ってもらうため、1・2年生を対象に開講しています。

「就活なんでも相談会」（3年次）
就職が決まった先輩に気軽に相談ができる機会を設けています。

「進路・就職ガイダンス」（3・4年次）
キャリアセンター職員によるガイダンスを3年次の4月と9月、4年次の7月に実施しています。9月のガイダンスは学科ごとに実施され、学科の特徴に合わせた説明を行っています。

「企業説明会」「学内合同企業説明会」（3・4年次）
本学学生に向けた個別の「企業説明会」は年間約80社以上が、また複数の企業がブースを分けて実施する「合同企業説明会」には年間200社以上が参加しています。

「ムサビ進路ナビ」

キャリアセンターでは、これまで複数のシステムにまたがっていた就職関連情報を一元化し、「ムサビ進路ナビ」という新システムを2021年6月より導入しました。このシステムは、以下6種の機能を有しています。

1. 企業情報の収集：企業情報を簡単に検索することができます。
2. 先輩の就活体験談：企業ごとに、これまでの先輩の内定履歴や就活体験記を閲覧することができます。
3. 求人情報：本学に届いた求人情報を確認することができます。ムサビ生限定の求人情報も公開されています。
4. 就活イベント予約：キャリアセンターが実施している、企業別説明会やポートフォリオ作成支援プログラムなど各種イベントを検索、予約することができます。
5. 個別進路相談の予約：学科・業界別の担当職員や、キャリアカウンセラーの資格を持ったスタッフとの個別面談を予約することができます。
6. 進路決定の報告：卒業後の進路が決まったらいつでも報告することができます。

このように、学生への就職活動をより円滑に進められるようサポートする環境整備やサービスをキャリアセンターでは今後も展開していきます。

個別進路相談予約画面（PC版）

「ムサビ進路ナビ」（スマホ版）

学科紹介

本学は造形学部と造形構想学部の2学部に、絵画、彫刻からデザイン、建築、映像、芸術文化、社会課題解決まで、美術・デザインの広がりをもつ12学科を擁します。本誌では、毎号一つの学科を取り上げ、その学科内で行われている授業やアトリエ・工房等の施設、所属教員をご紹介いたします。

視覚伝達デザイン学科

視覚伝達デザイン学科（視デ）は、1929年帝国美術学校創立時に開設された工芸図案科が源流です。その後、幾度かの改称を経て1974年に視覚伝達デザイン学科と改められ今日に至ります。1993年に始まったカリキュラム改革の先見性は学科名の原義となった視覚伝達デザインの領域をはるかに超えるものでした。人類が受け継いできた歴史と伝統、更新し続ける時代精神とテクノロジーに呼応し、社会、生活、文化と共生し続ける学科、それが視覚伝達デザイン学科です。

授業紹介（2年次後期 視覚表現演習）

1年次は2年以降すべての基盤となる身体と五感、言語というコミュニケーションの基礎を。2年前期は通称「レシピ」をテーマに、「食」と「食文化」に関する調査・体験、発見・分析・編集という一連のプロセスを通して、物の見方・捉え方を自分自身で発見し再構築するというコンテンツ・デザインを学びます。2年後期は専門分野の基礎課程。3年次は情報I, II・環境・ライティングスペースの4分野より選択するI群と、10分野ある専門性の高い選択科目のII群とに分けられ、個としてのデザインと公としてのデザインの交点を学びます。4年次はこれまでの集成として1年間をかけた卒業制作。視デにとって全ての授業が重要で、保護者の皆様には冊子やWebなどに掲載されているカリキュラムを改めてご覧いただき、学生がどの授業を受講しているのかを見てご理解いただければ幸いです。

ここでは、2年後期の視覚表現演習の8科目のうちDクラス「植生」を簡単に紹介致します。視覚表現演習は専任教員と非常勤講師2人1組で授業が進められます。このDクラスの授業内容は出版物の編集デザインです。テーマである植物を一次資料として即物的、科学分析的に徹底的に観察・解剖し、自分が体験し発見したことを図や写真、文章として記述し、編集・デザインして冊子としてまとめるものです。近年では、植物に対する学生の捉え方が深化し、自然と人工、百学連環的思考、西洋と東洋、日本人の自然感（思想と哲学）、生と死など、植物を通して深い洞察力を垣間見せるようになりました。そしてこうしたコンテンツを造形として立ち上げるために、文字組版の基礎、視感覚調整、誌面形成のための構造の理解と設計・構成など、言葉を提示するのための学習と訓練を繰り返します。

施設紹介

視デでは、これまで活版工房、シルクスクリーン工房、製本工房、写真スタジオ、映像室、音響編集室が設備されており、それぞれが授業単位で活用されてきました。そして今現在、新たに印刷（活版、シルクスクリーン、製本）、デジタル（コンピュータ、電気・電子機器）、写真・映像（＋動画、アニメーション、音響編集スタジオ機能）の3つの工房を骨格とした改革・再編計画が立てられ、授業だけでなく授業外でも学生たちが自由に工房を使えるよう再整備に取り組んでいます。3工房は従来通りそれぞれに独立・特化した機能を持ちますが、同時に各工房同士のネットワークが図られ、学生は工房間を自由に行き来することが可能となります。デザイン領域はとかく知と美の領域に偏りがちですが、この工房再編成計画が実施され、場としての工房が確保されることによって改めて実技実践を通したデザインを学ぶ姿勢を培っていく事が可能になります。

▲　1年生が受講するタイポグラフィの授業（2018年度）における活版工房の様子。金属活字を拾い、組んで、印刷をする、という工程を経験することで、DTPと金属活字組版の基本原理は同じものである、という概念を学びます。
◀上 2年前期（2018年度）「レシピ」の授業風景（最終週は料理の試食会）
◀中 2年後期視覚表現演習Dクラス「植生」の授業風景
◀下 3年後期「ライティングスペースデザイン」（地球をつくる）の課題展示

学科紹介

視覚伝達デザイン学科

視覚伝達デザイン学科専任教員

白井敬尚 教授

白井敬尚　SHIRAI Yoshihisa

1961年 愛知県豊橋市生まれ。
1981年 株式会社グレイス入社、宮崎利一氏にデザインの基礎を学ぶ。
1986年 株式会社正方形入社、清原悦志氏にデザインに対する姿勢を学ぶ。
1998年 白井敬尚形成事務所設立。
2003年 視覚伝達デザイン学科非常勤講師着任。
2012年 視覚伝達デザイン学科教授着任。

保護者の皆様へ（教員メッセージ）

視覚伝達デザイン学科には現在11名の専任教員と、50名を超える講師・客員教授がいます。またアカデミックな領域を担う教養・言語・身体・造形科目のほか、共通絵画・共通彫塑の教員たち全員が学生を支えています。

専任教員は、教育者であると同時に、研究者でありデザインの現場での豊富な実践経験を積んだデザイナーでありディレクター、アーティストです。そして視デの伝統ともいえる歴史的視点の縦軸と共時代性の横軸の交点をそれぞれの視点で捉え直し、学生とともに学ぶ姿勢を持ち授業にのぞんでいます。

学科の教育基盤としては、構想、発想、企画、そして調査、体験、発見、分析、計画、構築、編集、さらには設計、構造、意匠、施工と何段階にもわたるデザインのプロセスを、学年を追うごとに積み上げ応用・展開できるよう設定されています。対象に対してどのように向き合うのか、そして伝えるのかまでの過程そのものを重要視して授業を進めています。

学生は課題をとかく作品として仕上げたがります。しかし視デでは、小手先のデザインや流行のデザインを真似るのではなく、何を伝えるのか、伝えなければいけないのか、という対象の本質を探る姿勢と、学生個々の考え方が映し出されることを求めます。目の前の課題に一歩一歩着実に取り組む学生もいれば、空回りする学生もいます。教員は常に失敗することを厭わず、恐ることのないよう声をかけ、自分自身で物事を捉え発見することができるまで粘り強く付き合います。そしてその上でさらに造形性を求めていくのです。課題をこなしていくことは精神的にも体力的にもつらいことがあるでしょう。けれども視デには1学年120人もの学生が集い、日々取り組む姿を互いに見つめ、認めあい、励ましあっています。そこにこそ、この学び舎「視デ」に集う意義があるのではないかと思っております。

私のデザイン領域（教員の研究内容）

私が専門とするデザイン領域はグラフィックデザインです。現在は本学の教員のほかデザイナーとして活動をし、個人事務所を運営、出版物のデザインを中心にしつつ、美術館・博物館の告知物や図録を手掛けています。2005年から10年間はデザイン誌「アイデア」のアートディレクションとデザインを担当していました。近年では横尾忠則氏の展覧会関連の告知物や図録、作品集を担当しました。2017年には銀座のギャラリーggg、2019年は京都のddd、また2021年は中国・杭州、中国国際設計美術館で「組版造形　白井敬尚」という名称の個展を開催し、同時に作品集も刊行していただきました。

授業は1年から4年のゼミまでの全学年、そして大学院修士課程から博士後期課程まで年間を通して行なっています。授業内容はグラフィックデザイン全般ですが、書籍、雑誌、絵本など出版を中心としたエディトリアルデザイン、文字・活字・組版を中心としたタイポグラフィが核となっています。

私は実技実践を信条としているので取り立てて研究実績と言えるようなものはありません。とはいえ調べものをした結果としての論考ほか、企画・編集、監修をした書籍があります。学生には私自身が獲得した物の見方・考え方をできる限り言語化し、共有できるよう努めてまいります。

▲ 卒業制作制作風景　山本理乃（イラストレーション 2021年）
▲「W. A. Dwiggins: Inheritance and Experiment」安藤真生（フォント・デザイン 2019年）
▲「LINE ―from water―」伊賀さな（ペインティング 2020年）

▶「組版造形 白井敬尚」展ポスター（ギンザ・グラフィック・ギャラリー 2017年）

授業紹介

造形学部には、自身が所属する学科別の専門科目のほかに、2種類の授業科目があります。その授業内容の一部をご紹介します。

造形総合科目・文化総合科目

［造形総合科目］自身の専門とは異なった領域や、他学科が開設する授業を学ぶ科目です。学科の枠を超えた交流や発見が得られる、本学ならではの特徴的なカリキュラムです。
［文化総合科目］全学科対象の、広く一般の諸学問を学ぶ授業科目です。美術・デザインの各領域はもちろんのこと、人文・社会・自然の各分野から、外国語・保健体育まで、約750科目開講しています。

造形総合科目

造形総合・デザインI

基礎デザイン学科研究室
清水恒平 教授

造形総合・デザインIは、日本画学科、油絵学科、彫刻学科の必修科目であり、アートを専攻する学生がデザインを学ぶ授業です。デザインとアートは近い領域だと思われることも多いですが、実際には真逆と言って良いほど思考方法が異なります。アート専攻の学生にも、デザインの視点から造形を捉えることで、それぞれの制作活動にもあらたな発見を見出してもらうことが狙いの一つです。はじめてPCに触れる学生も多いため、操作説明や小課題を経て、最後に小冊子をデザインしてもらいます。今年度のテーマは「石」。図書館やインターネットで調査したり、フィールドワークをしながら写真を撮ったりすることで、「石」の新たな一面を抽出します。実制作だけでなく、石に向かい合って考え、調査し、構成していくプロセスも含めてデザインの学習につながっています。

講評風景。展覧会形式で他の学生の作品を閲覧。

出力したページをクリアファイルに入れて提出するが、中には製本まで仕上げる学生も。

文化総合科目

法学I（芸術法学入門）、法学II（知的財産と著作権法）

教養文化・学芸員課程研究室
志田陽子 教授

「文化芸術と法学の深い関係を《調べ、考える》オンライン授業」 美術大学の法学というと、「やってはいけないことルール集」を学ぶのだろうと思う人もいるでしょう。表現者の社会教養として、それは大切です。しかし表現者を守る法ルールがなかったために芸術家が悲惨な思いをした過去からも、学ぶべきことがたくさんあります。授業「法学I・芸術法学入門」では、「表現の自由」や「文化享受の権利」をクローズアップして、そこにこめられた歴史とこれからの可能性をじっくり学び考えます。「法学II・知的財産と著作権法」では、美大生にとって「自分ごと」となる権利とルールを学びます。オンライン授業を通じて、学びの素材を大学よりも広い世界の文化芸術や映画に求めながら、ルールがあることを知る→自分で調べて学ぶ→考えて論じる、の3ステップを実践しています。

オンライン講義の様子　映画・美術・音楽で知る「精神の自由」

オンライン講義の様子

column 1　ムサビ生の卒業後の活動をご紹介します。

武蔵美人（むさびと）

“むさびと”とは武蔵野美術大学を卒業し各方面で活躍している人達のこと。
企業への就職、独立、制作活動……、形は違えど皆社会に出て頑張っています。
このコラムでは企業で活躍する若手の“むさびと”を取り上げ紹介しています。
ムサビ生の卒業後の可能性や広がりを発見してください。

チームでつくり上げる面白さをムサビ時代に知ることができた

凸版印刷株式会社 情報コミュニケーション事業本部 マーケティング事業部 スペースプロデュース部 プランナー（取材時）
吉澤大起さん（2016年建築学科卒業生）

建築士の資格を持つ母に憧れて、ムサビの建築学科に進学しました。3年生の芸術祭（学園祭）でサークルの仲間と店舗設営をしていたとき、強い個性を持った仲間たちを適材適所で配置してまとめあげるプロデューサーのような役割が自分には合っていそうだと感じて、設計や建築から、展示表現やコンセプトメイキングへ関心が移っていきました。一人では絶対につくれない規模やクオリティの作品を、チームで仕上げていくことに面白みを感じたんです。そんな自覚を持ちながら入社した凸版印刷は、事業領域が平面・立体・デジタルと幅広く、私が所属するスペースプロデュース部は、企業の施設や展示会ブースのプロデュースを行っています。これまでの仕事で一番達成感があったのは、エコをテーマとした展示会で、子どもたちに“きれい”を考えてもらうための企業ブースをディレクションしたときです。ムサビのゼミで気付いた“伝える＝デザイン。問題提起＝アート”という考え方を思い出しながら、子どもたちが能動的にさまざまな“きれい”を考えられるきっかけを展示の中に散りばめました。見て、触れて、感じて、行動する―対話を生むコンセプトは、クライアントにも高く評価していただきました。ブースをひとつつくるにも、私のアイデアやコンセプトをより洗練されたかたちにブラッシュアップしてくれるデザイナーや制作チームがいます。みんなの力でつくり上げていくことが好きな自分には、とても合っている仕事です。

エコをテーマにした展覧会では、展示方法やブースデザイン、設営・運営のコスト管理、
運営スタッフのオペレーションまで、総合的なディレクションを手がけた。

column 2 ムサビ生の課外での活動をご紹介します。

mauleaf

コンセプトは"ムサビの「いま」を知る、わたしたちの広報誌"。学生が中心になって取材や執筆、編集をして、
キャンパスライフを楽しく・便利に・充実させるヒントを発信するメディアです。2021年11月発行の紙版掲載記事より、
本誌再編集版を掲載します。冊子全体は、左記QRコードリンク先よりご確認ください。
https://www.musabi.ac.jp/outline/pr/publication/magazine/

今度はどこに現れる？
キャンパス内を移動する展示空間

2021年6月、武蔵野美術大学美術館の脇に突如現れた小さな木の家。その中には机や椅子などの家具作品が展示されていました。かと思えば、数週間後には9号館の脇に移動し、まったく別の作品を展示。そんな一風変わったアートスペース「へ hitoyane room」を運営しているのは、アートユニットの「へ hitoyane」です。へ hitoyane roomに込めた思いや、今後の展開について聞きました！

―― へ hitoyane roomを始めたきっかけは？

泉　最初のきっかけは、2020年12月に僕たちが所属している鈴木康広ゼミで有志展をやることになり、車のような什器をつくろうという話があがったことでした。

諏訪　わたしが『グッバイ、サマー』というフランス映画で車輪のついた移動する家を見て、「かわいくない？ つくりたいね」と言ったんです。

泉　その後、紆余曲折あって有志展ではつくらず、展覧会が終わったあとにあらためてふたりでつくることにしました。

―― どのような車を考えていたのですか？

泉　当初は車輪の付いた"移動式ギャラリーカー"を想定していました。

諏訪　キャンパス内を自由に移動することができる展示空間をつくりたくて。コロナで学内外の展示会場や展示室が使えなくなってしまったし、対面授業もできなくなり人と交流する場が減ってしまった。だから、いろんな人が展示・交流できる場や機会をつくりたいという話になったんです。

泉　ただ、車輪付きだと全体を支えて固定するのが物理的に大変だし、その形のまま保管する場所がなかったので、最終的には車輪を付けないことにしました。

―― 「へ hitoyane room」という名前はどのように決めたのでしょうか？

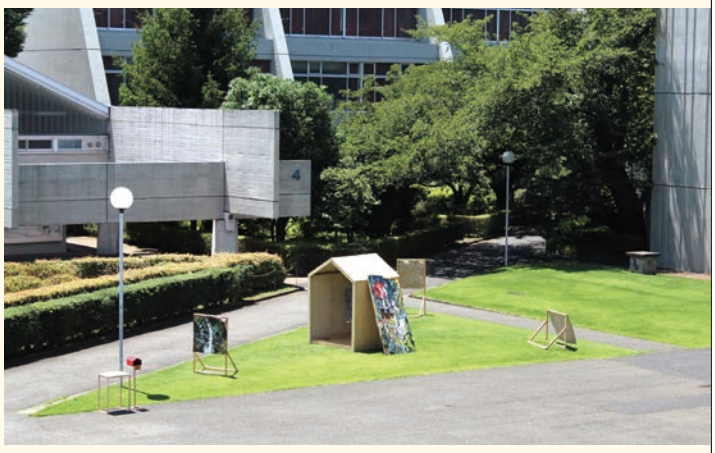
諏訪　名前はすごく迷ったよね。「○○ギャラリー」とかだと展示室という印象が強くなってしまうから、空間の使い方を限定しないようなイメージが持てる名前にしようと。さらに、屋根の形が個性的だから、家を連想させるようなかわいらしい名前がいいなと考えました。

泉　漢字1文字で考えていたときもあったよね。

へ hitoyane
泉 悠也＋諏訪萌々子
ともに空間演出デザイン学科4年

https://hitoyaneroom.studio.site/
Twitter：@hitoyaneroom
Instagram：@hitoyaneroom

オカヤマナナミ「canvas」展（2021年6月開催）


武内遥也「Return/Release」展（2021年7月開催）

諏訪　そうだね。最初は田舎の「舎」が意味的にいいなと思っていましたが、「舎」だけだと語呂が悪いからもっといいのがありそうだなと。その後、「舎」の漢字の部首「へ（ひとやね）」が、屋根の形と似ていていいんじゃないかという話になりました。「へ」には人間の行動や性質という意味があり、人が出会うという「会」の字にもこの部首が付いています。屋根の下で人々が集い、交流する場所になりますようにと「へ hitoyane room」に決めました。

――　移動式という新しい展示方法に驚きました。

泉　僕はもともと展覧会のキュレーションに興味があり、いろんな展覧会の企画をしたいと思っていました。それも、毎回別の場所で展示をするのではなく、ひとつの拠点があるといいなと。へ hitoyane roomは、そうした気持ちから生まれたものでもあります。

――　キュレーションで工夫していることはありますか。

泉　空デは“作品を見せる状況”を意識してつくることに重点を置くことが多いんです。

諏訪　空間的な見せ方にこだわりが強いよね（笑）。先生からも日常的に指摘されることなので、自分の作品をキュレーション的な視点で見る癖が自然と身についているのかもしれません。

泉　つくって終わりではなく、つくった作品をどのように展示したらいいのか、見る人がどんなふうに感じるかを常に考えますね。

諏訪　光のあて方とか什器の置き方、配線にも気をつけます。

泉　へ hitoyane roomは作品の見せ方のひとつとして、屋外展示の可能性を広げるとも考えていて。屋内での展示は雨風や虫などから作品が守られるメリットがありますが、屋外はそうした面がない。でも外で展示すると、ドアや仕切られた空間がないぶん、屋内よりも気軽に寄ってもらえるところがあると思います。だからへ hitoyane roomだけではなく、みなさんも屋外でもっと展示したらムサビも盛り上がるのではないでしょうか。

諏訪　夏祭りの屋台みたいにいっぱい増えたらいいよね（笑）。

――　展示を行うアーティストはどうやって決めていますか？

諏訪　最初は、誰も展示してくれないかもと不安で友だちに声をかけたりしていました。でも少しずつ、通りすがりの人が展示を見て「自分もやってみたい」と声をかけてくれるようになって。

泉　いまはどうしても、関わる機会が多い空デ4年生が多くなっていますが、ゆくゆくはいろんな学科・学年の人に使ってもらえたらと思っています。

諏訪　ファイン系の人にもぜひ展示をやってほしいですね。

泉　でも多分、これ以上できないけど……。

諏訪　そうなんです。というのも、わたしたちは今年で卒業なので、運営は冬までしかできません。だから後継者としてもしやりたい人がいたら、へhitoyane roomを譲ってもいいのかなと考えています。

泉　そうだね。解体してしまうのももったいないから、いままでの使い方と同じではなくても、誰かこれを活用してくれたらいいなと思っています。

――　短い期間になるかもしれませんが、今後はどんな活動をしていきたいですか？

諏訪　以前は作品展示のみの展覧会がメインでしたが、今後はライブパフォーマンスやワークショップも行い、内容に広がりを出していきます。

泉　これからは来場者とコミュニケーションがとれるようなイベントを増やしていきたいと思っています。

諏訪　ギャラリーというイメージにとらわれず、今後はもっとみんなが自由な使い方をしてくれそうで楽しみです。

取材・文＝井上 柊（芸術文化学科1年）

NEWS 1

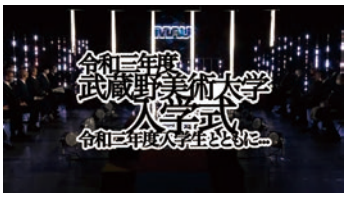
インフォメーション

令和3年度武蔵野美術大学入学式典および令和2年度武蔵野美術大学卒業式典のアーカイブをYouTubeで公開

各式典のダイジェスト動画を公開しています。

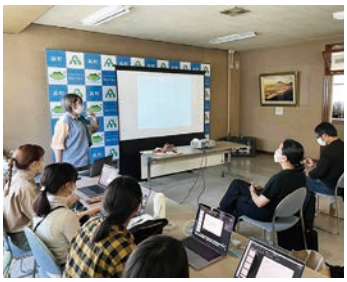
以下、YouTube「武蔵野美術大学 Musashino Art University」チャンネルよりご覧ください。

https://www.youtube.com/channel/UCk-Xv0rWz4Nm5cRtcKIGR7Q



本学と北海道森町が自然資本を活かしたまちづくりに関する産官学プロジェクトを開始

2021年9月より、森林資源をはじめとした自然資本を今後のまちづくりにどう活かしていくか、森町という地域の未来や可能性を提案するプロジェクトを開始しました。循環型の新しい社会のためにフィールドワークやオンラインによるリサーチ、検証を行い、地域における課題を発見・探究し、新たな価値を創造します。地域と大学のプロジェクトは様々な地域で行われてきました。しかし、残念ながらその多くは、大学のカリキュラムの制限や国と地域の予算の制限があり、単年での活動が中心でした。本プロジェクトは、本質的な地域課題に長期で取り組むために複数年での実施を目指しています。本年の取り組みは、その最初の年となります。本プロジェクトの皮切りとして、2021年9月よりクリエイティブイノベーション学科3年生と大学院クリエイティブリーダーシップコースの学生が、北海道森町に1カ月間滞在し、町内の企業や農家での就業体験やフィールドワークを実施し、分析した街の課題や魅力を踏まえ、今後の可能性について提言を発表しました。



オンライン オープンキャンパスを開催

2021年9月25日―26日にオンラインにてオープンキャンパスを開催しました。オープンキャンパスは、8月中旬に対面型で開催予定でしたが、緊急事態宣言や社会状況より日程を移動の上、オンラインに変更しての開催となりました。各学科では教員や在学生によるオンライン相談会が実施され、受験生からの質問にZoomを使って回答していました。また、本学卒業生でイラストレーターのいとう瞳氏（本学油絵学科版画コース卒）をゲストに、オンライントークイベント「版画からグラフィックアーツへ―PRINT（プリント）は時代を作る―」を実施しました。トークイベントの様子や学生広報局（受験生やその保護者に向けた情報の発信・イベントの企画・準備・運営を学生主体で行っているムサビ公式の団体）メンバーによる座談会の様子は、本学YouTubeで公開中です。

以下、YouTube「武蔵野美術大学 Musashino Art University」チャンネルよりご覧ください。

https://www.youtube.com/channel/UCk-Xv0rWz4Nm5cRtcKIGR7Q

「武蔵野美術大学 16号館」が2021年度グッドデザイン賞受賞

鷹の台キャンパスの16号館が、2021年度グッドデザイン賞を受賞しました。作り込みすぎないことで生まれた余白が、建物を使用する教員や学生たちのクリエイティビティを誘発するという仕掛けが、いい意味で期待を裏切り、新たなクリエイティビティへと昇華していくところが評価されました。

オンライン 芸術祭2021を開催

2021年10月29日―31日に芸術祭を本学史上初となるオンラインにて開催しました。YouTubeを利用した、サークルによるパフォーマンスなどのライブ配信や、バーチャル空間での作品展示と教員による講評会、オンラインでの作品販売や、様々な学科の学生が同じテーマで作品を制作する企画などが実施されました。一部のコンテンツは、YouTubeにて公開中です。

以下、YouTube「武蔵野美術大学芸術祭2021」チャンネルよりご覧ください。

https://www.youtube.com/channel/UCn98Ld_wynqbpEwilKUoOvQ

公開講座「膠を旅する――これからの表現と社会へ」を開催

2021年11月20日に市ヶ谷キャンパスにて公開講座「膠を旅する――これからの表現と社会へ」を開催しました。

「日本画の伝統素材『膠』に関する調査研究」は、武蔵野美術大学共同研究として2017年にはじまりました。

その研究成果は2021年、国書刊行会から出版された書籍『膠を旅する』、および本学美術館にて同名を冠して開催された展覧会に結実しました。今回の講座では、日本画家の内田あぐり本学名誉教授や、研究の中心メンバーであった後藤秀聖氏から、書籍や展覧会の目論み、そしてあまり表立って語られてこなかった企画者の考えや思いが語られています。さらに特別ゲストとして国立西洋美術館館長の田中正之本学客員教授と永青文庫副館長の橋本麻里氏も登壇されました。講座は現在YouTubeで公開中です。

以下リンク先よりご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=Xwx_WczlQU4

令和三年度 武蔵野美術大学卒業・修了制作展を開催

2022年1月13日―16日に、令和三年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作展を開催しました。広大なキャンパス内をギャラリーと見立て、2022年3月に卒業・修了予定の学部・大学院生による1,100を超える作品・研究成果が展示されました。作品は、日本画・油絵などの絵画、アニメーション・映画・写真などのビジュアル作品、彫刻、版画、テキスタイル、インスタレーション、建築模型、工業デザインほか、多岐にわたりました。

令和3年度武蔵野美術大学卒業式を挙行（予定）

2022年3月18日に、令和3年度武蔵野美術大学卒業式を挙行予定です。参加者は、令和3年度学部卒業生、大学院修了者のみとなる予定です。詳細は大学webサイトで発表しますので、ご確認ください。

NEWS 2

本学関連施設展覧会情報

2022年前期の予定

美術館

大学美術館として美術作品やデザイン資料などの収集と保存、データベースの構築、
展覧会の企画、開催、図録の刊行などの活動を行っています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内　https://mauml.musabi.ac.jp/museum/
月・火・木・金［祝除く］12:00―20:00
土・日・祝 10:00―17:00
＊会期・時間を変更、あるいは予約制を導入する場合があります。最新の情報は右記webサイトをご確認ください。

令和三年度 武蔵野美術大学 卒業制作 優秀作品展	4月4日［月］―5月3日［火・祝］
令和三年度 武蔵野美術大学 修了制作 優秀作品展	5月23日［月］―6月12日［日］
みんなの椅子	7月11日［月］―8月14日［日］ 9月5日［月］―10月2日［日］
原弘と造型	7月11日［月］―8月14日［日］ 9月5日［月］―10月2日［日］

民俗資料室

民俗資料室は民俗学者・宮本常一［1907―1981］［1965―1977本学教授］の指導により
収集された約9万点の生活造形資料をコレクションの中心としています。
収蔵資料の活用と公開を目的に企画展を開催しています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内　https://mauml.musabi.ac.jp/folkart/
収蔵庫見学 火・木
＊最新の情報は右記webサイトをご確認ください。

10月に「民俗資料室ギャラリー展示30［仮］」を開催予定です。
会期日程は、次号でお知らせいたします。

gallery αM

本学が運営するノンプロフィットギャラリー。ジャンルを問わず質の高い表現と可能性を有する
アーティストに作品発表の機会を提供すること、社会に斬新な価値を発信できるキュレーターに
展示企画の場を提供することの2点をコンセプトとしています。

東京都千代田区東神田1−2−11 アガタ竹澤ビルB1F　https://gallery-alpham.com/
火―土［祝除く］13:00―20:00
＊会期や時間等は変更になる可能性があります。最新の情報は右記webサイトをご確認ください。

αM+ vol. 2　わたしの穴　美術の穴｜地底人とミラーレス・ミラー
パート2：ミラーレス・ミラー　2月19日［土］―3月19日［土］

＊上記展覧会以降の予定については決定次第webサイトにて発表いたします。

美術館・図書館からのお知らせ

美術館 日曜日、祝日の開館について

より多くの方にご来館いただけるようにと、2022年度より展覧会会期中は日曜日、祝日も開館することとなりました。これまでは来館がむずかしかった方々も、ぜひこの機会にお越しください。みなさまのご来館を心よりお待ちしております。

なお、水曜日が休館となりますのでご注意ください。最新の情報は、webサイトをご確認ください。

民俗資料室 収蔵庫見学のご案内

民俗資料室では、火・木曜日に収蔵庫の一部を一般公開しています。見学の際は、開室カレンダーをご確認の上お越しください。5名以上のグループでの見学は、事前にお申し込みが必要です。詳しくは民俗資料室のwebサイトをご覧ください。

図書館 美大生におすすめの本の紹介

図書館では、「どんな本を読んだらよいのか、わからない」という学生のみなさんの声にお応えし、教員がお勧めする“美大生なら読んでおいてほしい本”をリストアップしています。これまでに、12名の“おすすめの本”を図書館Webサイトに掲載していますので、学生のみなさんと一緒にぜひご覧ください。

＊「おすすめ」でサイト内検索してください。
https://mauml.musabi.ac.jp/library/

図書館内展示時の様子

2022年度前期学事予定

4月	4日	入学式
	11日	前期授業開始：鷹の台　第1ターム授業開始［―6月4日］：市ヶ谷
	29日	昭和の日は授業日：市ヶ谷
5月	3日―5日	憲法記念日・みどりの日・こどもの日は授業日：市ヶ谷
6月	6日	第2ターム授業開始［―7月30日］：市ヶ谷
7月	16日	前期授業終了：鷹の台
	18日	海の日は補講・試験日
	18日―23日	前期補講・講義科目定期試験週間
	25日	夏季休業［―9月3日］：鷹の台
8月	1日	夏季休業［―9月3日］：市ヶ谷

＊上記予定は変更になる可能性もあります。
最新情報は右記大学webサイトをご確認ください。

https://www.musabi.ac.jp/

お問い合わせ先

事務取扱時間　9:00―16:30［昼休み12:40―13:40、日・祝除く］

下記事項などについて質問がございましたらお問い合わせください。

お問い合わせ先が分からない方は代表（総務チーム）までご連絡ください。

総務チーム　042-342-6021

内容	お問い合わせ先	連絡先
本誌について	広報チーム	042-342-6038 koho@musabi.ac.jp
学籍、授業、試験、成績 教職・学芸員課程、単位互換 卒業制作展	教務チーム	042-342-6044
学費の納入	経理チーム	042-342-6042
奨学金 学生生活・課外活動	学生生活チーム	042-342-6028
健康相談、健康診断	保健室	042-342-6029
進路・就職、インターンシップ	キャリアセンター	042-342-6048
留学、留学生サポート、国際交流	国際チーム	042-342-6037
入学式・卒業式	教学企画チーム	042-342-6011
美術館、図書館 民俗資料室、イメージライブラリー	美術・図書チーム	https://mauml.musabi.ac.jp/
gallery αM	gallery αM	https://gallery-alpham.com/

表紙写真 作者紹介

表紙では、本学助教の作品をご紹介します。
助教とは各研究室において、学生の
指導や、教授の職務補助など行う教員で、
学生にとっては身近な存在です。

椋本真理子
MUKUMOTO Mariko

彫刻学科　助教
2013年　武蔵野美術大学大学院
造形研究科修士課程美術専攻彫刻コース　修了
近年の主な展覧会、
個展『fountains』亀戸アートセンター、
『マイ・ガーデン』NADiff Window Gallery
など。2009年からダムや水門といった
巨大人工物やリゾート地など人の手が
加わった風景をモチーフに、
繊維強化プラスチック（FRP）を使用した
立体作品を発表している。

〈表紙作品〉
タイトル：fountain（mix）
制作年：2020
素材：FRP、プリキダストボックス
サイズ：W60×D18×H52 cm

MUSABI information February 2022 ● 武蔵野美術大学保護者向け情報誌 ● 2022年2月発行 ● 発行：武蔵野美術大学 広報チーム ● 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 ● デザイン：三橋光太郎（視覚伝達デザイン学科卒）